

令和8年5月



NO.277

FAS住まい新聞

発行責任者
㈱福地建装
北斗市中野通 324
Tel 0138-73-5558
fax 0138-73-8460

◇相次ぐ地震 いま私たちができること◇

先般は、東北地方（八戸市沖）を中心に震度5弱の地震がありました。

2025年11月には、熊本県阿蘇地方で震度5強、同年12月に青森県東方沖で震度6強、2026年1月には島根県東部で震度5強を観測。

直近では4月18日に長野県北部、その2日後の4月20日には三陸沖で震度5強の地震が発生しました。

日本はもともと地震大国ですが、ここ数ヶ月の発生頻度を見ると、改めて「いつ・どこで起きてもおかしくない」という現実を突きつけられます。

今回は、地震発生時の正しい行動と、日頃からできる備えを確認します。

■揺れを感じたら、まず身を守る

- ・机やテーブルの下に潜り、頭部を保護する。
- ・近くに家具がない場合は、壁際や柱の近くで姿勢を低くする。
- ・揺れが収まるまでは移動しない。

■揺れが収まったら

- ・火の元を確認し、ガスの元栓を閉める。
- ・出口（ドア・窓）を確保してから避難経路を確認する。
- ・靴を履いてから移動する（ガラスの破片などに注意）。

■屋外・オフィスにいる場合

- ・屋外：ブロック塀・看板・電柱など落下物のそばから離れる。
- ・オフィス：パソコンやモニターなどの転倒に注意しながら机の下へ。
- ・エレベーターは使用しない。

◇日頃からできる備え◇

■防災バッグの内容チェック。

品目	ポイント
飲料水（1人1日3L×3日分）	7年や15年保存水は管理の面でも◎
非常食（3日分以上）	調理不要の缶詰・栄養補助食品
手回し充電ラジオ	停電時の情報収集に有用
懐中電灯・LED ランタン	予備電池もあると心強いです

品目

モバイルバッテリー
携帯トイレ（1人5回分以上）
体ふきシート・歯磨きシート
救急セット・常備薬
現金（小銭・千円札中心）
重要書類のコピー
ホイッスル

ポイント

常に充電済みを維持
断水時は特に重要
水が使えない環境を想定
処方薬がある場合は処方箋控えも
停電時は電子マネーが使用不可
保険証・通帳・免許証など
声が出せない状況での救助要請に

■家庭・職場でできること

- ・家具の固定：転倒防止金具・突っ張り棒を設置する。
- ・避難経路や避難場所の確認：職場先の避難経路や避難先を家族・同僚と共有。
- ・安否確認手段の共有：災害用伝言ダイヤル（171）やSNSの活用方法を事前に決めておく。
- ・備蓄品の定期的な見直し：賞味期限や電池残量を年1回以上チェックする。

■地震後に注意すること

- ・余震への警戒：本震後も数日～数週間は余震が続く場合があります。揺れが落ち着いても油断しないようにすべきです。
- ・デマ情報に注意：SNSは誤情報が拡散しやすいものです。気象庁・自治体の公式情報を必ず確認しましょう。

◇「ファースの家」の耐震性◇

「ファースの家」は、地震に強いという実績が長年にわたり評価されてきました。近年の研究によっては、その強さが学術的にも証明されました。

愛知淑徳大学の古田教授との共同研究では、ファース専用断熱材「エアクララ」を施工した壁が、合板のみの壁と比べて約1.4倍の躯体強度を持つことが実証されています。この強度は、厚みにより若干変化しますが、厚みが薄い施工でも躯体強度が高くなることが確認されており、「ファースの家」に長くお住まいのお客様にも安心いただける結果となりました。

エアクララは、硬質ウレタンの中でも特に強度・接着性に優れており、そのことが強度向上にも寄与しています。エアクララの耐震性は古田教授と横浜国立大学の中尾先生により、論文としてすでに発表されています。

「ファースの家」は、ただ快適なだけではありません。いつ発生するか解らない地震にもファース工法は、学術的に実証された強さで皆さんと、大切な家族を守り続ける住宅システムなのです。

（著・研究開発部 金重康宣）